

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-128797

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
C 11 D 1/66

識別記号

庁内整理番号  
7419-4H

⑬ 公開 昭和57年(1982)8月10日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 自動車用洗淨剤組成物

⑯ 発明者 秋本新一

町田市金森1793-3

⑰ 特 願 昭56-13858

⑰ 出 願 人 日本油脂株式会社

⑱ 出 願 昭56(1981)2月3日

東京都千代田区有楽町1丁目10

⑲ 発明者 小島一見

番1号

松戸市新松戸3丁目328番地

⑳ 代理人 弁理士 浅野豊司

明 細 書

1. 発明の名称

自動車用洗淨剤組成物

2. 特許請求の範囲

A 一般式(1)で示されるアミノオキシド0.05

～1.0重量%、

B 一般式(2)で示される非イオン性界面活性剤、

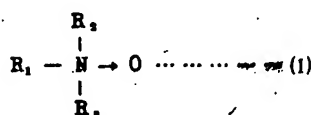
0.05～4.0重量%、

C アルカリビルダー3.0重量%以下、

D 水、1.0～9.8重量%、

E 添加剤、0～2.0%、

から成ることを特徴とする自動車用洗淨剤組成物。



ただし、 $R_1$  は炭素数8～22のアルキル基、  
アルケニル基の単独あるいはそれらの混合物、

$R_2$ 、 $R_3$  は炭素数1～4のアルキル基、ヒド  
ロキシアルキル基の単独またはそれらの混合物

で、異なつていてもよい。

$R_4 O (C_1 H_5 O)_a (C_2 H_4 O)_b H \cdots \cdots (2)$

ただし、 $R_4$  は炭素数8～22のアルキル基、  
アルケニル基、アルキルアリール基の単独また  
はそれらの混合物、 $a = 0 \sim 20$ 、 $b = 7 \sim 50$   
であり、かつエチレンオキシド鎖の占める割  
合が、全体の平均分子量に対して40%以上で  
ある。また、エチレンオキシドとプロピレンオ  
キシドがともに付加している場合にはブロック  
付加物でもランダム付加物でもよく、付加の順  
序も問わない。

3. 発明の詳細な説明

本発明は自動車用洗淨剤組成物に関する。さ  
らに詳しくは、中古自動車等に付着した汚れを  
洗淨する自動車用の洗淨剤組成物に関する。

従来の自動車用洗淨剤、とくにエンジンル  
ーム等に付着した土ぼこり、油が固着してしまつ  
た部分の洗淨剤としては、アルキルベンゼンフ  
ルホン酸ソーダとトリポリリン酸ソーダの混合  
物、又はノニルフエノールエトキシレート、エ

備でかつ作業環境が悪い)よりも洗浄能力がすぐれていることが認められた。

#### 実施例 6

80000 Km 走行した車のエンジンルームを以下に示す組成物 2 l を原液のまま汚れた箇所スプレーし、その後、 $10 \text{ kg/cm}^2$  に加圧した水約 40 l を吹きつけて洗浄した。乾燥後、実施例 1 に準じてセロテープを用いて洗浄性を測定した。

#### 組成物

ジヒドロキシエチルラウリルアミノオキシド

..... 8.0 %

POE (10) ラウリルエーテル ..... 10.0 %

メタケイ酸ソーダ  $9 \text{ H}_2\text{O}$  ..... 5.0 %

水 ..... 77.0 %

#### 洗浄結果

エンジン部 ..... 92.0 %

内腔 (車輪の上方) ..... 95.0

" (運転席側) ..... 97.0

" (上側) ..... 99.0